

| 科目区分 | 専門分野 | 科目名 | 成人看護援助論Ⅳ (代謝・内分泌) | 対象学生 | 第2学年 | |
|------------|---|--|----------------------|------|------|--|
| | | 単位数(時間数) | 1単位(15/30時間) | 学期 | 第2学期 | |
| 担当講師 | (院内講師)、(院内講師) | | | | | |
| 科目目標 | 1. 慢性的にある対象の特徴及び看護を理解する。 2. 生涯コントロールに必要な代謝・内分泌疾患患者の看護を理解する。 3. 対象の看護に必要な技術を習得する。 | | | | | |
| 授業計画 | 内部環境(血糖)調節機能障害のある患者の看護 第1回 糖尿病とは (講義) 1) 糖尿病の定義 2) 糖尿病の症状 3) 糖尿病の分類 4) 糖尿病の検査 5) 糖尿病の治療(運動・食事・薬物療法等) 第2回 糖尿病合併症 (講義) 1) 慢性合併症 2) 急性合併症 3) 糖尿病と妊娠 4) 糖尿病患者の看護 第3回 自己血糖測定、インスリン療法 (講義) 第4回 自己血糖測定、インスリン療法 (演習) | 内分泌機能障害のある患者の看護 第5～7回 1. 下垂体疾患患者の看護(講義) 1) アセスメント(検査所見含む) 2) 看護の実際 下垂体前葉機能亢進症(先端巨大症) 下垂体前葉機能低下症 下垂体後葉疾患(SIADH、尿崩症) 下垂体の手術を受ける患者の看護 2. 甲状腺疾患患者の看護(講義) 1) アセスメント(検査所見含む) 2) 看護の実際 甲状腺機能低下症、甲状腺腫瘍 3. 副甲状腺疾患患者の看護 1) アセスメント(検査所見含む) 2) 看護の実際 副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症 4. 副腎疾患患者の看護 1) アセスメント(検査所見含む) 2) 看護の実際 アルドステロン症、クッシング症候、副腎機能低下症、副腎髄質機能亢進症、副腎腫瘍 第8回 終了試験 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 | | | | | |
| 講師からのメッセージ | 臨床で遭遇する頻度が高く基本的知識として必要な内容を選択して教授する。形態と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、基礎看護援助論、成人看護学概論などの学習を想起し講義に臨む。国家試験出題基準を確認し学習すること。 | | | | | |

| 科目区分 | 専門分野 | 科目名 | 成人看護援助論Ⅳ (重症心身障害児 (者)の看護) | 対象学生 | 第2学年 |
|------------|--|----------|---|------|------|
| | | 単位数(時間数) | 1単位(15/30時間) | 学 期 | 第2学期 |
| 担当講師 | (院内講師) | | | | |
| 科目目標 | 1. 政策医療について理解する。 2. 長期療養している重症心身障害児(者)の看護を理解する。 3. 対象の看護に必要な技術を習得する。 | | | | |
| 授業計画 | 第1回(花車) 国立病院機構が担う政策医療の役割 1) 国立病院機構の役割 2) 政策医療の分野と看護の特徴 第2回(藤川) 1. 重症心身障害児(者)の身体的・精神的・社会的特徴 1) 障害の分類 2) 障害に伴う合併症 3) 形態的・機能的発達の状況 4) 療育と活動支援 第3回(岡内) 1. 重症心身障害児(者)のコミュニケーション方法 1) コミュニケーションの障害の程度 2) 言葉・意思表出力 3) ストレス発生と反応 4) 感情:快・不快 5) 欲求 第4回(嶋) 1. 重症心身障害児(者)のもつ生活機能を活かした援助1 1) 嚥下障害 2) ポジショニング | | 第5回(藤川) 1. 重症心身障害児(者)のもつ生活機能を活かした援助2 1) 事故防止(異食、骨折、誤嚥) 2) 感染防止 3) 主な徴候と看護 発熱、脱水、痙攣、便秘、行動障害 第6回(岡内) 1. 家族への関わり 1) 家族の状況・役割 2) 家族の障害受容 3) 看護師の役割 第7回(西野) 1. 通園施設の役割・特徴 1) QOL維持・向上に向けた支援 2) 看護師の役割、職種間の連携 3) 療育指導プログラムの実際 2. 重症心身障害児(者)を支援する保健医療チームとの連携 第8回 終了試験 | | |
| 評価方法 | 終了試験 | | | | |
| テキスト | 重症心身障害療育マニュアル 第2版 | | | | |
| 講師からのメッセージ | 国立病院機構が担う政策医療について理解する。長期療養している重症心身障害児(者)の身体的・精神的・社会的側面の特徴を学習し、対象にとって安全・安楽な看護とは何かを理解して欲しい。 | | | | |